

市民が集まり、憩い、楽しめる緑豊かな場所にいたしましょう



森の中の高知駅



高知を愛する皆様へ (29年7月号)

平成29年7月1日

入梅宣言がでて日照り続きかと思ったら、今度は大雨。お天道様はバランスを考えておられるようです。今月の活動日のお知らせです。ご参加をお待ちしています。

7月16日(日)

午前9時～11時 夏花(ペンタス、夏スマレ、マリーゴールド、ミリオンゴールド、アサガオなど)が揃った南口電停横「みんなの庭」の手入れをいたします。北口駐輪場の植栽もまだ雑草が残っていますので、ご利用者のためにもう一汗かきたいところです。

午後2時30分～3時30分 帯屋町筋中央公園前でのチラシ配りもコツコツと続けます。いつものように葛岡さんがプロ顔負けのギターと歌声で応援してくれます。

8月の共同活動はお休み(水遣りは欠かせませんが)、9月は17日(日)の予定です。

6月のトピックス

○6月15日(木)

「みんなの庭」の冬・春花を抜いて、土起こしと施肥を行いました。(協力:前川種苗さん)花ざかりの多年草(アジサイ、ユリ、アガパンサス等々)はそのままです。

○6月18日(日)

冬から春まで「みんなの庭」に彩りを添えてくれた花々に代えて夏花120株を植えました。これからぐんぐん育ってくれることでしょう。1年半前に低木約60本を植えた北口駐輪場まわりの雑草も出来る範囲で取り除きました。



春花を除いた更地



夏花植付け完了



アジサイやユリはそのまま



除草後の駐輪場北面

日曜午後の帯屋町は地元チームによる「よさこい踊り」のショーで賑わっています。競合を避けるため、チラシ配りとライブを30分ずらして午後2時半からといたしました。

駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え(花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など)をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥ 幹事連絡先: 〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11

中田昌志 携帯電話: 090-8849-3651 E-mail: m.nakata@ak.wakwak.com

公文敏雄 携帯電話: 090-7016-3743 E-mail: kumont2@yahoo.co.jp

ホームページ: <http://mori-kochi-ekijimdo.com/>

取引銀行: 四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 代表中田昌志」名義 普通 0709695



「緑のまちづくり」を考える

(12) 無為自然・空白のススメ
— 伊予松山城ふもとの広場



先月、泊まりがけで松山市に行ってきました。炉端焼き店で楽しんだ翌朝、早起きしてお城を散策しました。まだ動いていないロープウェイの脇の東雲口から本丸まで登り、水分を補給して一休みの後、南側の黒門口登城道を下りていきます。鬱蒼とした木々に覆われた、石段と土の薄暗い古道が尽きると、左手は白壁で囲まれた「二之丸史跡庭園」です。門がまだ閉まっていたので見学は諦め、ふと右手南西方向に目をやると、何もありません。

いや、実は見渡す限りと思えたほどの広場がありました。処どころに木立、人影といえば、早朝のことで散歩の人が小さく見えるだけ。「何だこれは？」というのが第一印象(写真①)。

傍で休んでいた公園管理人らしき人の話では、「もう10年あまりになるじゃろか。野球場や競輪場とかを郊外に移した跡地なんよ」とのことでした。



写真①芝生の「やすらぎ広場」



写真②堀之内の空地(赤丸内)



写真③愛媛県美術館外観

松山市の広報によると、このあたりは街づくりの一環として平成16年から行われた「城山公園整備事業」対象街区で、「堀之内」(旧三の丸)と呼ばれる場所だそうです(写真②)。お堀に囲まれた、目視で優に500メートル四方は有るとされる広い土地の殆どが「やすらぎ広場」、「ふれあい広場」、「さくら広場」、そして「史跡保全地区」など空地で、建物と云えば、お城から遠く離れた西南の一角に県立美術館、図書館、市民会館などの文化施設が木々に隠れてひっそり佇んでいるだけです(写真③)。「本丸・二之丸・高石垣などの史跡景観を眺望しながら市民や観光客が自由に集い憩える緑ゆたかな空間づくりを目指して整備した」(松山市ホームページより)結果です。

さて、高知城周辺はどうでしょう。南側のお堀の内側には、城郭や石垣の景観を遮るように県庁が座わっています(写真右上の赤丸)。追手前小学校跡地に僅かに残った空間「新図書館西敷地」は「広場を」との声を抑えて商業施設建設の方針のようです。すでに施設だらけの桂浜(浦戸城址、写真右下)も更なる建設が計画されています。



お金や効率を追うのが悪いとは申しませんが、ものごとは行き過ぎると必ず不都合が生じます。意外に思えますが、幕末に活躍した龍馬の座右の銘*は「無為自然」(あれこれ余計な細工を弄さず天の法則にゆだねる)でした。

*龍馬の別称(号)は自然堂(じねんどう)、改名後の本名は直柔(なおなり)。「(無為)自然」(自ずと然り)、「柔」(しなやか)共に中国古典「老子」のキーワード。

